

登録番号 第 22599 号

ランネート™ 微粒剤 F

- 特長：
- 水がいらないので手軽に散布できます。
 - 周囲への飛散が少ない剤型です。
 - 老令幼虫に対しても速効的で、発生を見てからの散布が可能です。

有効成分	メソミル（化管法第1種）・・・1.5%	包装	3kg×8
性状	類白色微粒および粗粉 63～212 μm	有効年限	4年
毒性	劇物	危険物	-

【適用害虫及び使用方法】

2022年07月21日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	3～5kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	コカガ タマギンソウハバ アブラムシ類	4～6kg/10a				
だいこん	アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	3～5kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混和は1回以内)
	コカガ タマギンソウハバ アブラムシ類	4～6kg/10a				
かんしょ	ハスモンヨトウ エビガラスメ イモコガ ナカジロシタバ	3～5kg/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	コカガ類幼虫	6kg/10a				
ばれいしょ	ヨトウムシ	3～5kg/10a	収穫7日前まで	5回以内	散布	5回以内
	アブラムシ類	4～6kg/10a				
はくさい	ネリムシ類	6kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	地表面散布	2回以内 (は種時の土壌混和は1回以内)
だいず	ハスモンヨトウ シロイモジマダラメカガ カムシ類	4～5kg/10a	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
にんじん (北海道に限る)	キタネブセンチュウ	20～30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	2回以内 (は種前の土壌混和は1回以内)

使用上の注意事項

- (1) 本剤を使用した場合には、アラニカルブを含む剤は使用しないこと。
- (2) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (3) 本剤の散布は、地上1.5mの位置における風速が3m/秒をこえるときは行わない。
- (4) 地上散布では散粒用多口ホース噴頭付き動力散粒機で散布すること。
- (5) 小面積の野菜畑等で使用する場合はランネット微粒剤F専用の散布筒で散布し、手まきは絶対にしないこと。
- (6) はくさいに使用する場合、作物にかかると薬害を生ずるおそれがあるので、作物にかからないように注意して株元の地表面に散布すること。なお、散布後土壌との混和はしないこと。
- (7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (8) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - 1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
 - 2) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- (2) 作業中に、粉末等を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移し、安静にすること。薬剤を多量に浴びたときには、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗うこと。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (3) 本剤による中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。呼吸が困難な場合は気道を確保すること。口移し人工呼吸は行わないこと。
- (4) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (5) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼するとともにうがいをすること。
- (6) 本剤の散布に当たっては危害防止のため、散布対象作物が人の胸の高さ以上の場合は使用を避け、下に向けて散布すること。
- (7) ハウス内など遮閉された場所での使用はさけること。
- (8) 高温多湿時の長時間作業及び疲労時の散布はさけること。
- (9) 犬、猫、鳥などペット類、家畜が食べないようにすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。